

I 総合フェスティバル

展示部門

事業名	第23回やまなし県民文化祭総合フェスティバル展示部門 「やまなし美の競演2025」
開催日	令和7年1月16日(木)10時～令和7年1月19日(日)16時まで
場所	山梨県立図書館イベントスペース
入場者数	864名
参加者数	出品者数:101名 作品点数:101点

本年度も、山梨県立図書館イベントスペースにて、「やまなし美の競演2025」をテーマに、美術・書道・写真・華道・フラワーデザイン・ハンドクラフトの6部門の県内代表作家による、ジャンルを超えたコラボレーション展示を開催しました。昨年度を上回る作品点数となり、ボリュームアップした展示をお楽しみいただきました。各部門の力作が会場を彩り、ご来場者の皆様より「素晴らしい作品に感動した」「さまざまなジャンルを同時に楽しめて良かった」等々、沢山のご好評と今後も続けてほしいという声をいただくことが出来ました。



舞台部門

事業名 みんなあつまれ!やまなしカルチャーランド

開催日 令和7年2月16日(木)10時～15時

場所 山梨県防災新館1階など

入場者数 1500名

参加者数 出演者数:約250名

これまで様々なジャンルの特長を生かした舞台公演を行ってきましたが、今年度は会場を県防災新館周辺へ移し、子どもたちに気軽に文化芸術を楽しんでもらうことを目的としたイベント「みんなあつまれ!やまなしカルチャーランド」を開催しました。

音楽・合唱・洋舞・民謡民舞・日本舞踊・朗読・太鼓・吟剣詩舞による舞台や洋舞・吟剣詩舞による展示、三味線ワークショップ、美術部門のご協力によるワークショップ「バレリーナを描いてみよう!」、日川高校書道部による書道パフォーマンス等を行いました。

また、高校生以下を対象にマスコットキャラクターを募集し、最優秀賞の作品はイベントの印刷物等に活用させていただきました。当日には受賞者3名の表彰式も行いました。

今年度初めての試みでしたが、当日は天候にも恵まれ、子どもたちを中心に大勢の方にご来場いただき、様々なジャンルの文化芸術を楽しんでいただくことができました。



やまなしカルチャーランド
マスコットキャラクター
「ふんちゃん」



Ⅱ 部門別フェスティバル

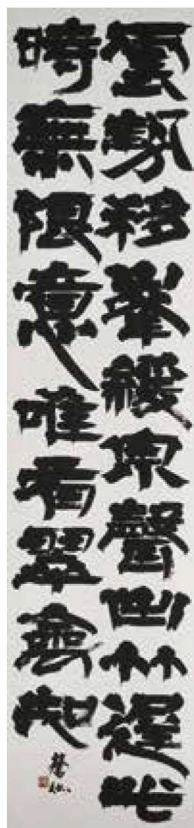
美術展・書道展・写真展より



写真部門 県民文化祭賞 渡辺英基「モンシロチョウ」(ネイチャー写真の部)



写真部門 準県民文化祭賞 野中光征「闘牛場」(モノクロ写真の部)



書道部門 県民文化祭賞
鈴木馨伽「邵康節詩」(漢字)



書道部門 準県民文化祭賞
柿崎菜穂「逢原」(漢字)



美術部門 県民文化祭賞 若林克友「昇和」(彫刻)

美術部門

事業名 第23回やまなし県民文化祭 美術展

開催日 令和6年11月12日(火) 9時～

令和6年11月17日(日) 17時

場所 山梨県立美術館 県民ギャラリーA・B・C

入場者数 1263名

参加者数 出展者数:185名 応募者数:121名 作品点数:185点

美術部門では例年通り「くらしに文化が根づくやまなし」の実現を目指し本県文化活動推進のために幅広く活動してきました。

部門別フェスティバルは23回目を迎えてのやまなし県民文化祭美術展を開催しました。旧芸術祭の意思を継承し本県美術の向上と普及を図ることを目的としました。特に平面・立体の区分をより明確にして考え方の整理を行いました。応募された作品は全体的に旺盛な創作力と時間をかけて丹念に作りこんだことが感じられる作品が多かったです。県民文化祭賞には現代美術作品、空気感のあるシンプルな木彫抽象作品が選ばれました。他入選作は全体的に具象傾向の作品が多かったです。

委員、招待者の高齢化と若い人の公募展離れが気になります。今後の検討課題です。

専門委員会では展覧会の充実と質向上を目指してさらに活発な活動推進を行いたいと思います。やまなし美の競演では美術部門専門委員による34点の力作が揃い無事開催できました。



書道部門

事業名 第23回やまなし県民文化祭 書道展

開催日 令和6年11月3日(日・祝) 9時～

令和6年11月8日(金) 15時

場所 山梨県立美術館 県民ギャラリーA・B・C

入場者数 795名

参加者数 331名 作品点数 331点

令和6年11月2日、中央書壇より日展会員、読売書法会常任理事の吉澤石城先生を山梨県立美術館にお招きし、第23回やまなし県民文化祭書道展の審査が行われた。

山梨県の書道愛好者の熱き思いを込めた応募点数は漢字・一字書・調和体・かな・篆刻・刻字に269点。その中より入賞者26点を選出。委嘱出品62点と合わせ、県民ギャラリーA・B・Cを使用し331点の展鑑となった。

審査総評として「出品作品の書体や様式が多岐に亘り、楽しい審査が出来た。上位入賞作は、字の形よりも強靱な線を見つけて選出した。一本の線で心に響かせるのが作家の使命。これからも真摯に紙に向かい一本一本の線を追求して欲しい」と。やまなし県民文化祭賞の鈴木馨伽さんの隸書作品は「横画、斜画全ての線が強靱で空間に響いている。落款も収まりよく作品全体がきっちり仕上がっている。」と評した。

展覧会初日には好評を得ているギャラリートークを開催。多くの書道愛好家が訪れた。委嘱作家を展鑑したギャラリーCは、作家それぞれの個性と表現が聞き合う見応え十分な空間であった。



写真部門

事業名	第23回やまなし県民文化祭 写真展
開催日	令和6年12月 3日(火) 13時～ 令和6年12月10日(火) 15時
場所	山梨県立美術館 県民ギャラリーA・B
入場者数	818名
参加者数	応募者数:125名 作品点数:628点

第23回やまなし県民文化祭写真部門の作品募集は、本年も8月31日締切にて行いました。本年は新型コロナウイルスの影響はほとんどありませんでしたが、応募作品数では一般の部に於いては、58点多い473点の応募がありましたが、小中高生、特に高校生の応募が前年比112点減少した為、応募者50名減、応募点数は昨年比52点減となりました。本年度の作品審査は、女流写真家の佐藤倫子氏を審査員に迎え9月26日(木)厳正なる審査会を実施し、やまなし県民文化祭賞にはネイチャー写真の部から単写真「モンシロチョウ」渡辺英基氏(南部町)が選ばれました。また、本年も準県民文化祭賞が選出されモノクロ写真の部から「闘牛場」野中光征氏(南アルプス市)が選ばれました。山梨県立美術館には、入賞作品全作品を小中高生については、応募者全員の優良作品を展示し、一般県民の皆さんに鑑賞いただきました。



ハンドクラフト部門

事業名	第23回やまなし県民文化祭 ハンドクラフト展
開催日	令和6年12月 4日(水) 9時～ 令和6年12月10日(火) 15時
場所	山梨県立美術館 県民ギャラリーC
入場者数	1080名
参加者数	出展者数:14名 応募者数:52名 作品点数:66点

押し花絵や籐工芸などの手工芸作品が並ぶ「第23回やまなし県民文化祭ハンドクラフト展」が県立美術館で開催されました。一般公募の入賞、入選作と県ハンドクラフト協会の会員14名作品計66点を展示しました。

革工芸や彫紙アート、ステンドグラス、粘土工芸、3Dピクチャー、パッチワークなどさまざまな素材や、技法のクラフト作品の魅力を、いきいきと伝える場となり、会場は大盛況でした。今回は会員、公募入選者ともレベルの高い作品の数々と、展示配置の良さが好評でした。美術館講堂において、「アートニット」の体験教室を開催して、アート感のあるオンラインの作品が出来上がり、参加者は驚きと感動で大変喜んでいました。

最終日には公募入賞、入選の授与式を行いました。違う分野からの入部希望もあり、来年度に向け「ハンドクラフト部門」の内容の充実と技術の向上、発展に努めて参りたいと思っています。



華道部門

事業名	第23回やまなし県民文化祭 華道展
開催日	令和6年10月10日(木) 10時～ 令和6年10月15日(火) 15時
場所	山梨県防災新館1階 オープンスクエア全面
入場者数	951名
参加者数	出瓶流派:13流派 出瓶者数:63名 作品点数:63点

第23回やまなし県民文化祭部門別華道展は県内13流派が特長を活かした作品を代表者は通期、会員は前後期に分け展示しました。

会場設営では、空気清浄機設置や開放的空間作り、外部へのアピールを試みました。ブラインドを開けたのでライトアップされた作品や閉場後の会場内の様子を見て、改めて足を運んでくださる方も大勢いらっしやり昨年より多くの来場者をお迎えできました。

出瓶者からは、猛暑で秋の花材を準備するのが大変だったとの声も聞かれましたが皆さん素敵な秋を表現されていました。

来場者のアンケートからは、「毎回楽しみにしている」「癒される」「元気をもらった」「もっと大勢に見てもらえる工夫を」「駐車場の案内が欲しい」「花にも人にも優しい空調を」等貴重な意見をいただきました。

これらを参考に、華道部門の更なる活性化に力を尽くして参ります。



音楽部門

事業名	第23回やまなし県民文化祭 音楽祭
開催日	9月15日(日)12時30分開場、13時開演 YCC県民文化ホール 小ホール
場所	7月27日(土)南アルプス市カナリアホール オーディション 8月18日(日)YCC県民文化ホール 小ホール
入場者数	約350名
参加者数	応募者総数 40名 ・プレオーディション (ピアノのみ) 28名 ・オーディション 32名 (プレ合格者21名を含む) ・音楽祭 第一部出演者 15名 第二部出演者 1名

参加者数は、コロナ禍以前と比較すると今年も少なかったものの、一昨年から昨年、今年と少しずつ増えてきています。

音楽祭をコンサート形式にして二度開催しましたが、今回はコンクール形式に戻しました。ピアノ、声楽、弦楽器、菅打楽器それぞれに優秀賞を設けました。該当者なしの部門もありましたが、全体的に演奏水準は高かったと思われます。

またこの音楽祭の大きな特長である第二部の特別演奏では、本県出身のマリンバ奏者 古家啓史さんに素晴らしい演奏を披露していただきました。マリンバの優しい音色に、心が癒されました。



合唱部門

事業名	第23回やまなし県民文化祭 合唱フェスティバル2024
開催日	令和6年8月24日(土)・25日(日)
場所	YCC県民文化ホール 大ホール
入場者数	1200名
参加者数	出演団体数:15団体 出演者数:177名

合唱部門は、8月24日(土)・25日(日)の二日間にわたり、YCC県民文化ホール大ホールで合唱フェスティバル(山梨県合唱連盟主催、合唱コンクールと同時開催)を実施いたしました。

これまでは日曜日の午前中への出演希望が多数でしたが、今年度は土曜日午後への希望が増え、同時開催している合唱コンクールとの時間設定に苦労しました。しかし一方で、フェスティバルとコンクールが短い休憩のみで、連続して演奏されることによって、それぞれのステージを互いに鑑賞する機会に恵まれました。大ホールのステージは少人数でもよく響き、ステージ上から見える広々とした客席に向かって歌われる出演者のみなさまの姿は喜びと希望に満ち、観客を大いに勇気づけるものでした。

今後も合唱を通して交流を深めることのできるフェスティバルとなるように工夫していきたいと思えます。



邦楽部門

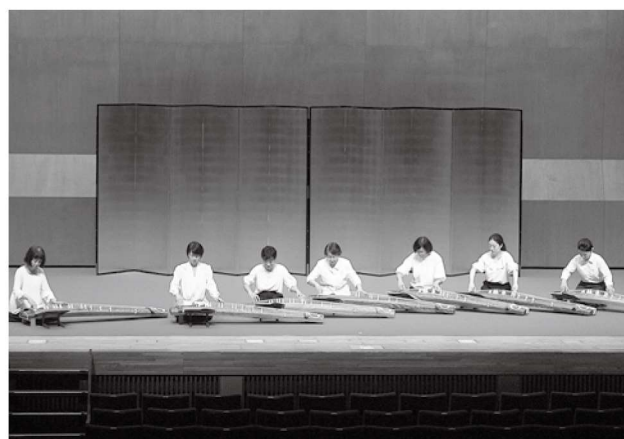
事業名	第23回やまなし県民文化祭 邦楽部門公演会
開催日	令和6年10月6日(日) 11時~17時
場所	YCC県民文化ホール 小ホール
入場者数	300名
参加者数	出演団体数:21団体 出演者数:126名

日本の“伝統”音楽である邦楽を伝承し、次世代につなげる為の大会を目指した。すなわち、温故知新であり、自国の民族の伝統の音楽を忘却することは、自国をなくすことと等しいからである。近代日本が捨てて来た文化は多く、先人の文化から学ぶことは多い。

外国観光客が来ればジャポニズムだとしてタンスの奥の引き出しから持ち出して、みせるような社会では情けないからだ。「稽古」とは、古(いにしえ)を稽(かんが)えることであり、古、イニシエとは、もともとに近づくことだろう。私達は日頃の稽古を積み、若い世代に“伝統”音楽をつなげる責務がある。

おかげさまで、箏曲家、長唄家、尺八家の協力によって、山田流、生田流の三曲、尺八の本曲、長唄と、そしてワークショップ参加者の演奏等、多種多彩の演奏会が開催でき、来場者も感激しておられた。

次年度はワークショップに工夫をこらし、たのしい演奏会を目指したい。



演劇部門

事業名 演劇「楽屋のハナ子さん」

開催日 令和6年6月30日(日) 14時～

場所 山梨県立文学館 講堂

入場者数 250名(招待者も含む)

参加者数 出演団体: 劇団やまなみ、劇団創作座
出演者数: 15名

今回の舞台は家族の絆とは…これを知る為のお芝居です。

〈ストーリー〉

主人公菜穂子が高校演劇で「RUN AWAY」(脱走)の劇中劇のキャサリン役に、悩みを抱え苦しむ楽屋の場面から物語が始まります。そして、そこに住んでいる幽霊のハナ子さんとの出会いから家族へと繋がっていきます。又、後輩のエリカと話をする中では家族との悩みを聞くうちに、菜穂子自身の生いたちと向き合うことになり葛藤をしていきます。そんな中で、菜穂子は人と人との繋がり原点は家族の絆にあると気づき、キャサリン役のイメージをも掴み、平和の明日へ一歩踏み出していきます。

〈感想より〉

皆さんが輝いていて、パワーを頂きました。70周年の舞台に期待します。ハナ子の何により菜穂子に変化したのか分かりづらかった。

以上

70周年の舞台創りに、生かしたいと思います。



洋舞部門

事業名 新国立劇場バレエ団プリンシパル 米沢唯
クラシックバレエ特別講習会及びトークイベント

開催日 令和6年11月23(土)・24日(日)

場所 双葉ふれあい文化館

入場者数 参加者含め 延べ 200名

参加者数 出演団体数: 10団体 出演者数: 延べ120名

昨今の少子化の波は私たち業界にも訪れ、舞台芸術を制作するための出演者や運営に影を落とし始めてきました。

そこで、今年度は山梨の未来を創る子どもたちに夢と希望を持ってもらえるよう、新国立劇場バレエ団プリンシパルダンサーの米沢唯氏をお招きし、初めて公募型の「クラシックバレエ特別講習会を行いました。

公募では、今までの公演では参加の無かった多くの団体や個人の皆様にも受講していただくことができ、裾野を広げられる可能性を感じたところで。

間近に見る講師の美しさや、日々の努力、また挫折を経験したお話しなど、全てが受講者の心に深く染み入ったと感じています。

子どもたちの輝く瞳を忘れず、これからの山梨の文化芸術を維持発展させるために、今私たちに出来ることを一つ一つ丁寧に行っていきたくと、切に思います。



民謡民舞部門

事業名 第23回やまなし県民文化祭 民謡民舞フェスティバル

開催日 令和6年12月1日(日) 12時30分～16時

場所 YCC県民文化ホール 小ホール

入場者数 200名

参加者数 出演団体数:12団体 出演者数:200名

令和6年12月1日、第23回やまなし県民文化祭「民謡民舞フェスティバル」を開催いたしました。今年度は、例年とは異なる趣向として、民謡民舞部門における文化講習会を実施しました。この講習会では、東京オリンピックにも出演された松田隆行先生をお招きし、「東京音頭」のほか、山梨県民謡である「甲州盆唄」の歌唱指導を行っていただきました。

例年はフェスティバルのフィナーレとして「甲州よっちゃばれ踊り」を披露しておりましたが、今年度は講習会で指導を受けた「甲州盆唄」を唄と踊りで華やかに披露し、フレッシュな舞台となりました。

また、全国の唄と踊り、山梨県の唄と踊り、未来に羽ばたく子どもたちと題し、全28曲が披露される大きな舞台となりました。来年度も引き続き、子どもたちへの指導や民謡の継承と発展に力を尽くしてまいります。



日舞部門

事業名 第23回やまなし県民文化祭 日本舞踊公演

開催日 令和6年10月5日(土) 12時30分～17時

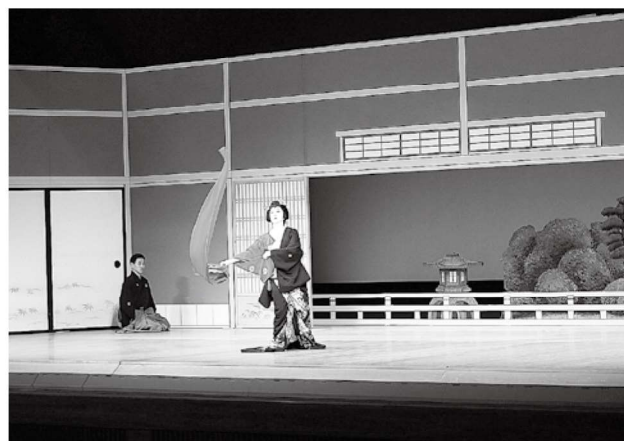
場所 YCC県民文化ホール 小ホール

入場者数 400名

参加者数 流派数:3流派 出演者数:12名

日舞部門では、(公社)日本舞踊協会山梨県支部が共催となり、支部会員とその門弟が出演した公演となりました。県内の多くの方々に、本格的な日本舞踊の舞台を見ていただく事と、子供達に興味を持っていただく事を目的として公演当日に臨みました。

1月に文化庁の日本舞踊キャラバン山梨公演が開催されたため、県民文化祭までの準備期間が短かったので、裏方スタッフ(衣裳、大道具、小道具、かつら等)の手配に苦労しました。日本舞踊の本公演は、ここ数年、スタッフの件数の高騰のため出演料の負担が多くなってしまうので県の助成金は有り難いのですが、会場費も無料になると助かります。山梨ではなかなか見られない本公演に、多くの方に喜びと感動の声をいただきました。出演者に小中学生が参加したことにより、幅広い世代の方々にご覧いただき大盛況でした。2023年に国の「重要無形文化財」に指定された日本舞踊を多くの方々に、より普及できるように、今後活動を続けていきたいと思っています。



朗読部門

事業名 朗読フェスティバル

開催日 令和6年12月1日(日) 13時30分~16時

場所 山梨県立文学館 講堂

入場者数 110名

参加者数 出演団体数:12団体 出演者数:20名

毎年一般公募により参加者を募集しており、本年度は、12組の応募があった。部門として、参加者が一番良い状態で発表できるよう、また来場者に満足してお帰りいただけるような運営を心掛けている。お陰様で、アンケートの回答は、好意的なものが殆どであった。

今回は、毎年参加している子供たちのグループに加え、親子の共演があったことは大変うれしいことだった。また、自作の詩を披露する方も2組あり、新鮮だった。

若い世代の参加者を増やすことと、この事業のことを知ってもらい、沢山の方に会場に足を運んでいただくことは毎年の課題である。

これらを検討しながら、より良いステージを作っていきたいと考えている。



太鼓部門

事業名 第23回やまなし県民文化祭 太鼓部門公演

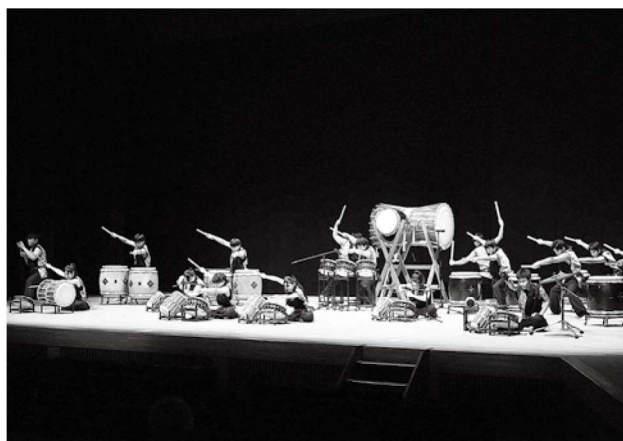
開催日 令和6年11月17日(日) 12時30分~17時

場所 YCC県民文化ホール 小ホール

入場者数 202名

参加者数 出演団体数:8団体 出演者数:160名

第23回やまなし県民文化祭太鼓部門公演は、令和6年11月17日(日)県民文化ホール・小ホールにて開催されました。今回は、新型コロナウイルス感染症も5類に移行したとはいえ計画段階から、感染症対策にも配慮し昨年に引き続き入場者を500名に限定し、出演団体も1団体増えたこともあり出演者の控室も、練習室を借り足したり、楽器の搬入搬出で密にならないよう8時から搬入できるよう借入延長をしたり、予想される感染症対策を打ち当日を迎えました。昨年に引き続き、公演当日の入場者の検温やアルコール消毒、チケットの氏名、住所の裏書は実施せず、客席間の間隔も通常に戻して開催されました。出演団体は、昨年度の8団体(襲・火男亀会、鼓摩の会和太鼓和樂、高根ふるさと太鼓保存会、認定こども園甲府西幼稚園職員太鼓、南アルプス市鼓友連合、三軒歌舞伎太鼓、山梨県立韮崎工業高校太鼓部、ワークショップ特別チーム)に加え新たに「印の里六郷太鼓」の参加を得、入場者数は202名あまりだったのですが、県民の皆様日本の伝統文化である和太鼓の重低音の魅力や篠笛の軽やかなお囃子の音色を楽しんでいただけたのではないかと感じています。



吟剣詩舞部門

事業名	第23回やまなし県民文化祭 部門別フェスティバル 吟剣詩舞道大会
開催日	令和6年12月8日(日) 12時30分～16時
場所	山梨県立文学館 講堂
入場者数	197名
参加者数	出演団体数:20団体 出演者数:127名

県内20団体が一年間の研鑽の成果を発表し親睦・交流をはかった。総合フェスティバルが〈子ども〉をキーワードにした事に合わせて当大会も第二部に『若人のかがやき』少年青年発表を盛込んだ。瑞々しいのびやかな吟詠、躍動感溢れる剣舞の姿に観客は魅了された。第一部・四部の流会派発表では、3つの構成吟「川中島の三英傑を詠う」「源平盛衰」「ほととぎすを詠う」を中心に多彩な作品を披露。第三部では第22回総合フェスティバル「舞台系」参加作品『麗しき霊峰富士を詠う』を再演。初めて詩吟剣詩舞をご覧になった方が多かった。「かっこ良かった」「日本の良き文化をインバウンドの旅行者に観てもらいたいですね」等お褒めの言葉を頂いた。

高齢化に伴い会員の負担を軽減する為、舞台要員を初めて委託した。マイクの設置、進行がスムーズに運び良かった。今後も伝統文化継承のため若い人達が入門してくれるよう地道な取組みが必要と強く感じる。



吹奏楽部門

事業名	第23回やまなし県民文化祭 第63回山梨県吹奏楽祭
開催日	峡北 令和7年2月11日(火・祝) ハケ岳やまびこホール 中巨摩 令和7年2月9日(日) 桃源文化会館 甲府 令和7年2月11日(火・祝) YCC県民文化ホール 峡南 令和7年2月2日(日) 身延町総合文化会館 場所 峡東 令和7年2月9日(日) 甲州市民文化会館 南都留 令和7年2月11日(火・祝) ふじさんホール 北都留 令和7年2月2日(日) 都の杜うぐいすホール
入場者数	2500名
参加者数	出演団体数:120団体 出演者数:2000名

吹奏楽部門フェスティバルは、今年で63回目を数える山梨県吹奏楽祭を兼ねて開催している。以前は県全体1会場で実施していたが、現在では7会場に分かれて各地域で実施している(山梨県吹奏楽連盟の7つの支部がそれぞれ開催する形式)。小学校団体から一般団体まで参加しており、各団体の発表・交流の場として、また地域音楽文化への寄与の場として大きな役割を担っている。

インフルエンザ等、感染症の影響を受けながらも、全ての支部で開催することができた。全支部合わせて120団体、約2000名の演奏者が集い、いずれの会場も大変な盛会となった。ソロ・アンサンブル・合奏など、様々な演奏形態で発表が行われ、合同での大編成による演奏が行われた支部もあった。選曲もクラシックからジャズ、ポップスまでと非常に幅広く、吹奏楽の魅力を十分に発揮する会となった。



文学部門

事業名 第23回やまなし県民文化祭 文学部門 文学作品公募

開催日 表彰式 令和7年2月23日(日) 14時～16時

場所 山梨県庁防災新館 オープンスクエア

入場者数 44名

参加者数 応募者数:179名 応募作品数:215点

第23回やまなし県民文化祭文学部門の作品募集は、公募要項配布の上、小説・児童文学・エッセイ・詩・短歌・俳句・川柳の7種目で179名の方々から215作品が寄せられました。昨年から作品応募数が増加傾向にあり、更なる盛り上がりを期待しております。

体験型事業では、本年度は児童文学部門でワークショップ「創ってみよう!ファンタジーの世界セミナー」が9月14日(土) 山梨県庁防災新館 オープンスクエアで開催されました。宮澤、楠本、沢登各講師のもと、参加者の方々がファンタジー作品の構想案を発表し、講師や参加者で批評しあい、良い自己啓発の場となったようです。今年は小説ですが、大勢の方の参加をお待ちしています。



茶道部門

事業名 第23回やまなし県民文化祭 大茶会

開催日 令和6年10月13日(日) 10時～15時

場所 山梨県立男女共同参画推進センター

入場者数 1600名

参加者数 流派数:6団体

第23回やまなし県民文化祭茶道部門大茶会は、令和6年10月13日(日)、山梨県立男女共同参画推進センターを会場に盛大に行われました。幸い晴天に恵まれ開始時間午前10時には6流派の待合は大勢のお客様で終日列をなす状況でした。お客様は総計1,600席でした。茶会はスムーズに運営され大きな成果を収め閉会しました。参加流派は、裏千家・表千家・江戸千家・大日本茶道学会・小笠原流煎茶道・松風花月流の6流派。例年駐車場の混雑に、今年は茶会場前も広く整備され、善誘館小学校の駐車場が拝借でき、他二箇所も用意されて大分緩和し、お客様の受け入れの対応は良かったと思います。他人を大切に思いやる心、おもてなし文化は茶道を代表として日本人の象徴ともいえ、世界から注目されています。山梨県のご指導とご協力を仰ぎながら、県茶道文化の普及向上に務めていきたいと思っています。



Ⅲ 体験型事業

写真部門 (体験)

事業名	写真家 佐藤倫子 写真講座
開催日	令和6年12月8日(日) 13時～16時
場所	山梨県立美術館 講堂
入場者数	57名
参加者数	指導者数:1名 参加者数:47名

本年度の写真講座は、写真展審査をお願いした女流写真家の佐藤倫子氏を招いて、入賞作品展示期間中の12月8日(日)13時30分から、山梨県立美術館講堂に於いて、第1部ではやまなし県民文化祭入賞作品から選んだ20点の作品を中心に作品の講評をしていただきました。暫く休憩の後、第2部に移り講師独自の演題「生涯をかけて撮りたいテーマとの出会い」により、プロジェクターを用いて、熱意溢れる講演を戴きました。講師は写真大学卒業後、資生堂に入社して宣伝部の広告写真制作が中心でしたが、退職してフリーランスになり、スナップ撮影をしている中、講師の居住地の富岡八幡宮例大祭の深濱神輿の撮影を勧められ、2023年にはその個展「深濱」を開催し好評も得て、これからは深濱の祭り作品はずっと撮り続けるとの決意を固めた話でしたが、参加者は熱心に聞き入っておりました。



ハンドクラフト部門 (体験)

事業名	アートニット体験講習 (トライアングルマフラー)
開催日	令和6年12月8日(日) 10時～12時
場所	山梨県立美術館 講堂
入場者数	24名
参加者数	指導者数:1名 参加者数:24名

12月の体験教室ということで、「アートニット」の体験教室を行いました。募集定員を上回るほど多く申し込みをもらい、24名の参加者で両面フリースのマフラーを作りました。絵柄を転写するシートを選び、カットしてデザインの配置を決めてアイロンで転写し好みの色の毛糸をとり針を使って、端まで通していきます。出来上がりをイメージしながら皆さん真剣に取り組んでいました。アイロンを当てるだけで簡単に転写でき、自分だけのマフラーを仕上げて、大変喜んでいました。早速完成させたマフラーをまいて、ハンドクラフト展を来場されていました。参加者からは好評な意見が寄せられ、とても充実した体験教室となりました。アートニットの魅力を広げ、ハンドクラフトの発展と拡大を考え、協力していきたいです。



華道部門 (体験)

事業名 いけばな体験教室

開催日 令和6年10月13日(日) 11時～15時

場所 山梨県防災新館1階 県民ひろば

参加者数 指導者数:13名 参加者数:90名(付添含まず)

部門別華道展開催中の日曜日に華道展会場の外(県民ひろば)に於いて「いけばな体験教室」を行いました。申込方法は毎年試行錯誤の繰り返しです。QRコードは年配の希望者には難しく、チラシ配布先の再考も必要と思います。それでも当日参加された方はとても楽しまれた様子でした。

昨年始めた「花を長もちさせる水揚げ方法」を記載したメモ用紙は新しい方法を載せました。

参加した子ども達は鉢の使い方・初めての剣山・知らなかった花の名前を覚えるなど素晴らしい学びの場になったと思います。

今年も4時間90名の体験でした。10月とは思えない太陽に追われ日陰を求めて机の移動もありましたがスムーズに進行できました。

参加者の皆さんにも好評でした。この体験が「いけ花を生活の中で楽しむきっかけ」になる事を願います。



フラワーデザイン部門 (体験)

事業名 フラワーデザイン部門体験講習会

開催日 令和6年11月30日(土) ①10時30分から11時50分まで
②13時30分から14時50分まで

場所 リッチダイヤモンド総合市民会館2F 遊亀公民館研修室

入場者数 76名

参加者数 指導者数:6名 参加者数:70名

第23回やまなし県民文化祭フラワーデザイン部門体験型事業 フラワーデザイン講習会を令和6年11月30日①午前②午後の二回に分けてリッチダイヤモンド総合市民会館2F遊亀公民館研修室で開催いたしました。今年度、部の都合でフラワーデザイン展開催が出来ませんでしたので体験講習会に力を入れフラワーデザインの魅力を伝え普及に務めました。当初は受講者数を2回で60名と決めましたがチラシを作成・配布何日かで希望者が定員に達してしまい急遽12名分を再注文し会場キャパ一杯の募集としました。～想いを優しい花に～と題しロマンティックな花々を一杯にアレンジし好評でした。毎年リピートの方も増え、出来上がった作品を手に来年も…と帰途につかれる方など、多くの準備からの疲れも吹き飛ばすように無事に終了となりました。



邦楽部門 (体験)

事業名 尺八ワークショップ

開催日 令和6年8月11日(日)、8月25日(日)、9月1日(日)
9月8日(日)、9月29日(日)

場所 山梨県防災新館1F交流室

参加者数 指導者数:2名 参加者数:4名 出演者数:5名

邦楽・尺八への理解を深め、普及を図ることを目的に「やまなし県民文化祭邦楽部門公演会」の舞台に立ってみませんか?」をスローガンに、定員20名で参加者の募集を実施したところ、応募者は3名であった。参加者の数は少ないがとにかく実施することとし、講師2名の体制で練習を開始した。その後参加希望者が1名あったので追加して実施することにした。

尺八の持ち方、姿勢、呼吸法から始まり、童謡、唱歌を中心に練習した。とにかく音を出す事自体がむずかしい尺八に取り組み、5回目には出演曲である「ふるさと・雨降りお月・浜千鳥」の曲が吹けるまでに上達した。

邦楽部門公演会の舞台では堂々と演奏して出演した本人達も自信につながったものと思われる。

今後の課題としては、若い人の参加者が少ないこと、続けてやっていこうという人を増やす工夫が必要と考える。



朗読部門 (体験)

事業名 夏の朗読ワークショップ

開催日 令和6年8月4日(日) 10時~15時

場所 山梨県立図書館 イベントスペース

入場者数 32名

参加者数 指導者数:8名 参加者数:24名

毎年開催している本事業は、一般から青少年までを対象としている。これまでは、名称を「教室」としていたが、「ワークショップ」に改め、指導する側も共に学ぶ姿勢で取り組むこととした。

今回は、一般に加えて親子(小学生)二組の参加があった。大いに歓迎したいことだ。

午前中はテキストを学び、午後はその成果を発表することとしているが、親子が一緒に学び発表することは貴重な体験であると思う。

そして、この事業を通して、親子共演という形で部門別フェスティバルへ繋げることができた。

アンケート回答では、参加して良かったという内容のものが多かった。今後もテキストを吟味し、指導する側のレベルアップを図りながら、更に充実した内容の事業にしたいと考えている。



太鼓部門 (体験)

事業名 和太鼓ワークショップ

開催日 令和6年9月28日(土)、10月5日(土)、10月19日(土)、
11月2日(土)、11月9日(土) 何れも稽古

令和6年11月17日(日) 12時30分~17時 本番発表

場所 天野宣音楽事務所スタジオ

参加者数 指導者数:3名 参加者数:9名 出演者数:9名

第23回やまなし県民文化祭・太鼓ワークショップは公募により大人から子供まで県民9名の参加を得ました。天野宣音楽事務所1Fスタジオにて同音楽事務所所属、天野流和太鼓師範前田タクヤ、内藤晴久、勝村美月の三名にて指導を9月28日、10月5日、10月19日、11月2日、11月9日全5回実施、その発表の場として11月17日にYCC県民文化ホール・小ホールで開催された太鼓部門公演のステージにてそれまでの稽古の成果を披露した。参加者が実際に和太鼓に触れ、音を出して舞台に立つまでの過程で五感、心にも響く貴重な体験となった。舞台上では多くの観客を前に緊張もあったが、親子参加も含め世代を超えて日本の伝統文化を身近に感じてもらい、より一層山梨に根付く文化の裾野が広がる機会となった。



文学部門 (体験)

事業名	創ってみよう!ファンタジーの世界セミナー
開催日	令和6年9月14日(土) 9時30分～15時
場所	山梨県庁防災新館1階 オープンスクエア
参加者数	指導者数:3名 参加者数:16名

文学部門のワークショップは、毎年テーマを変えて開催しています。今年度は、児童文学のワークショップ「創ってみよう!ファンタジーの世界セミナー」を開催しました。午前中は、法政大学名誉教授、楠本君恵氏の講演「世界の古典〈アリス〉の魅力」を聞いて、その後は、各々が持参した原稿用紙二枚程度のファンタジーの作品をゼミ形式で合評、発表することにより各々の作品の完成への確信を得られたようです。参加者は15名程で、それぞれに目的を持たれてよい自己啓発の場になったようです。アンケート結果によると、今回はじめての方がほとんどでしたが、理解出来て、ディスカッションも楽しく、貴重な体験だったというコメントも頂きました。有難うございました。



茶道部門 (体験)

事業名	茶道体験教室
開催日	令和6年12月15日(日) 10時～16時
場所	素心庵
入場者数	89名
参加者数	指導者数:3名 参加者数:89名

やまなし県民文化祭「茶道体験教室」は、県茶道連合加盟四流派で交替で行っており、令和六年度は、大日本茶道学会が担当いたしました。ひとグループ50分の時間内で、茶席での客振りと水屋(茶を準備する所)の体験をしていただきました。茶席では、扇子に結界としての役目があり、床の間の飾り付けの拝見や、人のご挨拶の時にも、膝の前において使用すること等を説明。「正客」は、客の代表である自覚を持って振る舞い、「連客」は正客にすなおに従おうとする心を持つ…それは茶席の中だけではなく、実社会にも当てはまるのではないのでしょうか。相手を思いやり、謙虚な気持ちで人と接することの大切さをお伝えしました。また水屋では、おいしいお菓子を用意して、おいしくお茶を点てることをお教えし、お客様にお出しする体験もしていただきました。相手に喜んでいただくことが自分の喜びとなる、それが日本の伝統文化である茶道の精神ではないか、と考えます。

